

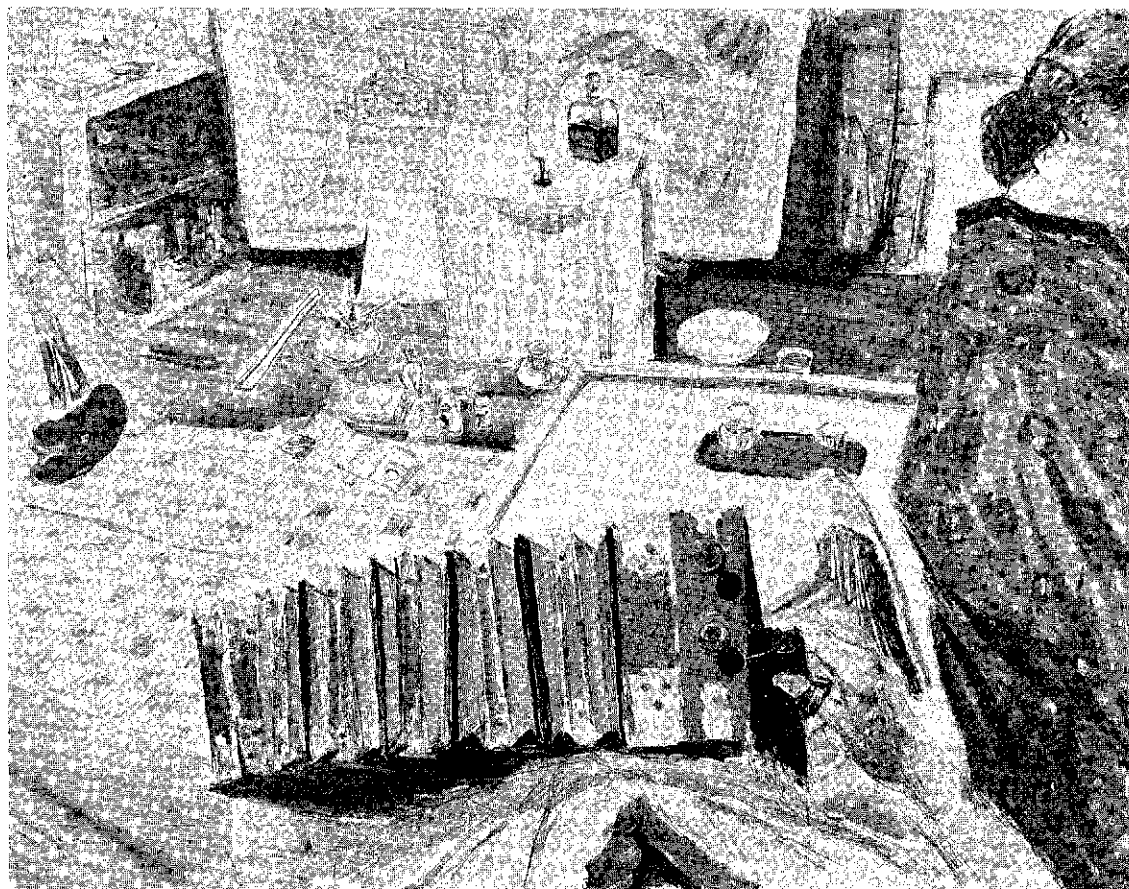
新潟県

63年

公民館月報

10月
第428号

特集 学習メディアの活用法を語る



小山良修「曲」1937作
78.5×100.0cm 水彩画
新潟県美術博物館所蔵

小山良修(1898~)は長岡市に生まれる。医学者でもある作家は、大正期から水彩画家として作品を発表し、戦前において早くも独自の画風を確立。「曲」はこの頃の作品。色調は堅確な重みをもち、画面はたくみに構成されている。

第29回関東甲信越静公民館研究集会

生涯学習を進める公民館 理念から実践へ

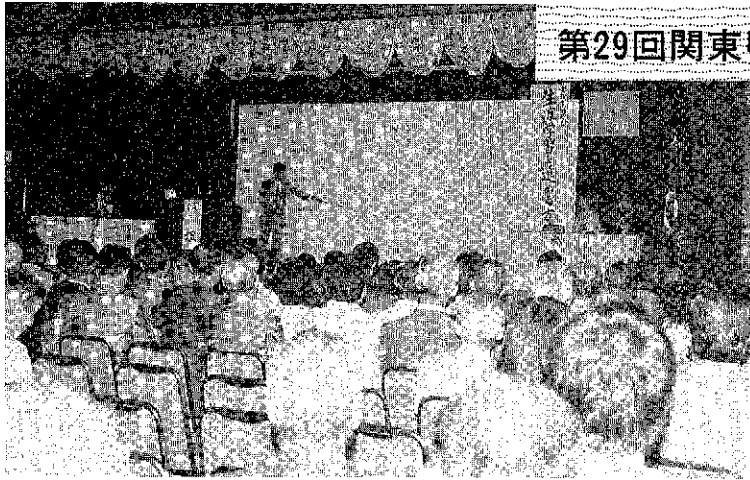
浜松市館山寺町で

九月七・八日の二日間、わたり、静岡県浜松市の館山寺町において、第29回関東甲信越静公民館研究集会が開

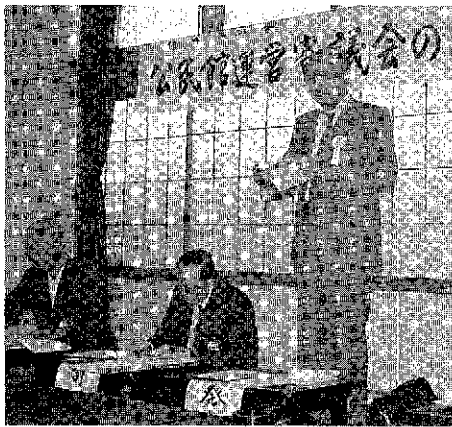
催された。景勝の地ということもあって、千四百名を超える参加者による大研究集会であった。主題を「生涯学習を進める公民館のあり方」におき、十六分科会からなる研究討議と、地元静岡県内の公民館人・利用者・県教育委員会の四者の実践発表が行なわれた。

の特色は、臨時教育審議会による「生涯学習体系への移行」が提言されて二年目を迎えたことや、文部省の機構改革等による体制整備への意気込みを反映してか、「もはや理念の段階から実践に移った」とする印象を強くした集会であった。

記念講演には、古橋広之進氏を迎え、日本水泳界の黄金時代を振り返りながら、これからのスポーツ振興に触れ、参加者が魅了するさわやかな記念講演であった。



OHPを使つての実践発表



発表中の長井氏 (その左松田、田村両氏)

なお、本研究集会に参加した本県関係者は25名と少数ではあったが、公運審部会(町村部)の発表・司会・助言を本県で担当し、小須戸町中央公民館の運営審議会の充実した活躍ぶりを発表し、参会者から高い評価を得ていた。(発表内容は既報)

なお、発表・司会・助言の三役を果たした方々は次の三氏である。
発表 長井武雄(小須戸町中央公民館運営審議委員)
司会 松田劫(荒川町公民館長)
助言 田村達夫(前十日町市公民館長)

分科会報告

公民館の管理運営(都市)

第一分科会に参加して

稲葉 幸次



第一分科会は「公民館の管理運営(都市)」がテーマでメンバーは92名、基調発表は、東京都立川市公民館で、運営の基本方針、利用の状況、今後の課題等が発表され質疑応答が行なわれた。特に①施設使用料、②職員勤務体制、③社会教育法第23条の問題等に質問が集中し、それ等を中心に討議された。

② 「職員の勤務体制」の問題では、週休二日制、休館日との兼合いで職員の勤務体制が討議され、職員は一館最低四、五人は必要であり、週休二制をとりに入れた場合、現況の人員で休日消化を考えると実質的に人員削減につながるかと助言された。

③ 「社会教育法第23条」問題では利用者の申請の際に、内容について充分検討できなく、貸したあとで23条に抵触している事実が判明することが多い。窓口立つ職員の判断、見極めが重要である。

常に巾広く考えながら判断し、特にこれからは、私塾化されないように気をつけなければならない、と助言された。(新潟市坂井輪地区公民館長)

関アロ公研集参加の記

分科会報告

地域づくりと公民館



佐々木 芳男

みんなの参加で地域の幸せを

第13分科会は、「地域づくりと公民館」基調発表を静岡県榛原郡相良町中央公民館指導係長、曾根秋彦氏より相良町の地勢概要等の発表にはじまり、特に各地区行政区単位の公民館22館の

組織や活動状況について発表された。それぞれ町立の公民館と連携を密にし公民館運営委員会を中心にユニークな事業展開をしている。そのなかで全町民参加の「ふれあいラジオ体操」に

まともとして、社会教育評論家西ヶ谷悟氏より、「公民館は社会教育、生涯学習の総合センターであり、施設面の充実も

ついて詳しい報告(町内町ヶ所の会場でのべ10万人の参加)があった。又、公民館まつりも地区ごとの公民館で手づくりの作品展示や芸能発表もあるという。基調発表に対して多くの質疑が交された。次に討議に入って公民館が地域づくりに対して、どのような事業展開をして行くべきか、各市町村の事例等が発表された。

もちろん、地域の人達が自分の幸せだけでなく地域の人達の幸せや発展を願って実行していく人間をつくっていくところだ。住みよい地域づくりのために

本研究会に、南浦公連では全町村で参加しているが、新潟県の参加者は極めて少なく、本年も会長以下25名であった。各市町村にはいろいろな事情もあると思うが、なんとか出来ないものか。(中之島町公民館長)



分科会報告

公民館と生涯学習

もう一步深味がほしかった

山田 欽二

辛口

近年コミュニティ活動(自治省主導型)なるものがあり、盛んになり、それなりの成果を挙げている。もちろんこの運動自体はまことに結構なことであり、なんら否定するものではない。むしろ、この

運動と公民館活動とをいかに連携し、その位置づけはどうかを検討すべきではなからうかと思う。さて、職員については、定期異動による交流があり、一般行政事務

か」を考え、ときには公民館関係法規をひもとくくらしいの自己研修を望みたい。また、職員の意識変革とあわせて運審委員・分館長についても同様である。公民館活動は職員一

就任以来関アロ大会への参加を夢見て来た。ようやく念願がかなって千四百名近い大集會に参加することができた。また、大きな期待をもって参加した分科会は形どおりの会であった。話し合いの過程においては、我が県公連の木下会長が軌道修正の要請をする一幕もあった。

変化する社会に対応する意識を

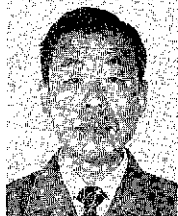
関原 賢照

務から畑違いの教育行政の一端を担うのである。前任者の歩んできた道を、ミスなく上手に渡るだけでは向上は望めない。常に意識をもって、「活動とは何

人ではできないことは今更申すまでもない。時代は日進月歩であり変化している。ここで一つ、わが街の委員等の年齢構成・在職年数などを調べて

最後に、活動のベースは住民の皆さんである。地域の人々は、何を望んでいるのであるるか、調査研究も合わせて提言するともに、住民への接遇について一層の努力をお願いしたい。(新井市在住 農業)

1. 世代間の交流を重視すること……今、各世代間に断絶が強まっている。
2. 需要と供給のバランスを考え、オーガナイザーとしての人材を掘り起し、その活用を図ること。
3. 図書館の機能を生かすとともに、情報センターとして様々な機関との連携を深めること。
として受止めることができ、ほんとは参考になった。(加茂市公民館長)



もって、「活動とは何

を調べて

を

を

はじめに

県が今年度新規の補助事業として進めているものに「生涯学習メディア利用促進事業」がある。なぜ、いま、県がこの事業を取り上げたのかというと、

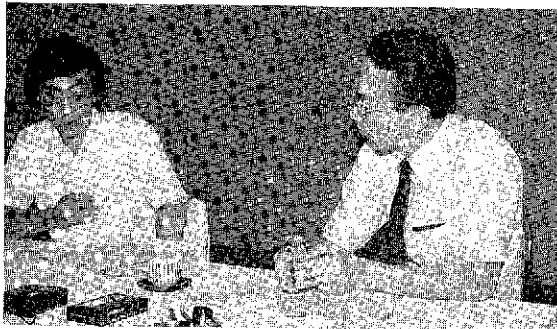
① 本県の「地域視聴覚ライブラリー」体制は、全国に誇る整備されたシステムである。このライブラリーを、うまく活用しないテはない。

② ところが、例えば社会教育における放送利用学習は全国的に見ると遅れている。情報化時代に対応するためにも、メディア利用の活性化が急がれる。

③ パソコン・ワープロなどのニューメディアに対する学習要

活用法を語る

小名重和(刈羽村派遣社教主事) 服部雅之(燕市社会教育課主事)



求が高まってきている。これに対する市町村の取り組みへの援助をする必要がある。

① 学習メディアを利用した学級・講座の開設

② 学習メディアの利用研修

③ 学習メディア利用の学習プログラム作成(開発)

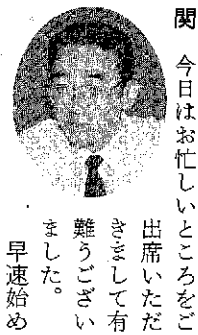
④ メディア利用の学習情報の提供(そのシステムの整備)の四つの事業の中から一以上を選択するものである。

今回は、この事業に取り組んでいる十市町村のうちから三市

町村の関係者に、ご参集いただき中間発表をしてもらった。

なお、聞き手には、県社会教育課の関宏司社会教育主事をお願いした。

どんな活用を



関 今日はお忙しいところをご出席いただきまして有難うございました。早速始めさせていただきます。

佐和田町では、①の学習メディアを利用した学級・講座への取り組みですね。

岩崎 そうです。「高齢者教室」と「文弥人形講座」の二つに主としてビデオを活用した学習で、両方とも四月から開設しています。

高齢者教室は、年間を通して22時間。学習内容は四季に分けてテーマを変える必修コースともう一つ、自主運営のクラブ(生花・短歌の二教室)の選択コースからなっています。

例えば、生花教室で講師が生ける手順をビデオに撮っておくと、全体の姿や部分を拡大して見たり、スローで分析したり、何回も繰り返し見ることができて理解が深まります。また、史跡めぐりや、庭園めぐりの時

に見た花でも、録画しておけば教材として使えます。

食生活の学習では、講師(栄養士や保健婦)が教材としてビデオを利用すると、分かりやす

いと高齢者には好評です。

文弥人形講座(国無形文化財指定、浜田守太郎氏の人形の使い方をビデオに記録保存してあるものを活用して学習)では人形の動き、足の型、人形の動かし方などが、目では速すぎてついていけないので、ビデオで再生し、スローにして見るなどビデオの特性を生かしています。

「語り」はカセットです。言葉が難解なので、何回も何回も繰り返し聞いています。

関 ビデオと、カセットも活用してのメディア利用を進めているわけですね。

燕市の場合、②のニューメディアとしてのワープロ・パソコンの利用研修ですね。



服部 「パソコン入門講座」で、九月から実施するもので、いまのところはまだ動いていません。が、「パソコン入門」そのものは当市の単独事業で三年前から実施しているのでそのあたりのことから話してみます。

当初は三台のパソコンで、独

習形態(独習用のソフトウェア)を利用)を建前にして始めたのですが、しばらくやってみると、指導者なしではうまくいきません。そこで、講座の補充としてクラブ制を採用して、自主活動を勧めています。指導者には講座終了者から協力してもらっています。講座は週三回、残っている曜日をクラブ活動の日にしていきます。独習よりは効果があるという考え方で四年目を迎えています。今年、推進会議を開設するので、新しい方途が見い出せることを期待しています。

当市では、パソコン講座の希望者が多いため、今年の補正での四台を加えて十二台のハードを用意しました。それでもなお不足(30人教室を目標)なので燕工業高校と連携して協力をえています。また、話は飛躍しますが、燕工業高校さんには、国補の情報活用能力育成講座にも大変協力していただいています。

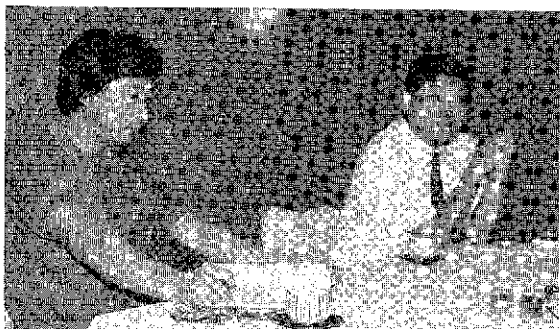
関 高等学校との連携という大変いいお話も含めて聞かせていただきます。

次に、刈羽村の様子をお願いします。こちらも①ですね。

小名 そうです。「家庭教育学級」でのビデオや映写機利用と「手作りビデオ講座」での教材づくりです。ワープロ・ビデオ・

座談会 学習メディアの

司会 関 宏司(県社会教育主事)
岩崎 勝(佐和田町公民館主事)



16ミリ映写機の講習会をこれまでバラバラに実施していたものを一本化し、三つを習得することを呼び掛けています。この講習会を通して、ビデオ撮影と編集の技術を高めると共に郷土学習の教材制作に取り組む計画です。まず、ビデオ講習会を七月に三戸間行ないました。そして、刈羽村のどんなことを録画するか趣旨をよく説明し、11月までに撮影するよう受講者にフィルムを渡してあります。11月に撮影し終えたものを持ち寄り、互いに見合っって編集をし、二月には完成する計画です。また、こうした学習は、郷土を見直したりするよい機会になるのでは

ないかとも考えています。関 単なる技術指導の講習会にとどまらないで、郷土教材づくり、仲間づくり、地域興し、にも関連しているわけですね。プラス ワンの発見は？ 関 いろいろとメディアの利用について話していただきましたが、実際利用してみても当初考えていなかったよさでも申しませうか、プラスワンといった発見はありませんでしたか。岩崎 私の場合は、単に教材として活用しているだけでなく、自分たちで教材づくりもしているという点です。生花教室での花をビデオに納めて教材として活用するという取り組みは、市

販の教材を利用するよりは価値の高いものになると思います。服部 パソコンなどのニューメディアについては機器や指導者を得にくい現状です。そのことから、工業高校との連携を深めることが出来たことですね。高校の持っている機器や指導力を活用することを、どこの市町村でも考えていかねばならないように思います。小名 私の場合は、プラスワンはこれからのことです。いまは一本の作品にまとめた際に、どう活用するかを考えなければなりません。(すでに、文化財のビデオは家庭貸し出しで好評を得ているから) 福社セン



福社セン

ターなど高齢者の慰安娯楽的施設での活用を図りたいと考えています。メリットは？ 関 同じようなお尋ねになりましたが、実際に利用してみても、どんな利点がありますか。岩崎 いろんな機会につとめてビデオを持ち出して宣伝しています。その結果、繰り返し見られること、速度を変えて見られること、操作が簡単なこと、などからだんだん評価されて、自主的な学習意欲を増してきたように思います。服部 公民館事業は、とかく、若い者が集まらない傾向があるが、パソコンというニューメディアは若い人の参加が多く得られる。そういう意味で、若い人を取り込むのにはいいのではないかと思います。それと、若い人だけでなくに高齢者・婦人(ワープロが主)層に評判になっているので、市長部局でも理解と関心を示してくれていることなどがメリットといえるでしょう。小名 刈羽村は小さな村ですが



他校区 (旧四小学校区) についてはあまりよく知らないのので郷土理解と連帯感を深めるのに役立っています。

問題点は？ 関 問題点としては、どこかがありますか。岩崎 公民館だけに固定して利用するというわけにはいきません。いろんな施設や部落でも利用するとなると、機器の運搬が大変です。服部 ヘッド(器機)とソフトの不足ですね。どちらも高度であるだけに、その充足は難しい問題です。また、発表の場があれば、目標もでき、励みにもなるので、そうした場の設定も今後は考えなくてはならないと思います。小名 ニューメディアの利用が進んでくると、集まらなくとも学習できる社会教育つまり、家庭でできる、個人学習の普及など、いわゆるインテリジェント化につながるものとして学習情報を提供してくれるようになるものと思います。おわりに 関 いろいろと実践の様子を紹介してくださって有難うございました。推進会議の様子も伺いたいのですが、紙幅の都合もありますので、又の機会にさせていただきます。この、メディア利用促進事業は、例えば、家庭教育学級でビデオや映画を利用するというシンプルなことだけでも、補助事業の対象になるのですが、この点がまだ十分浸透していないようです。学級などで毎回必ず使わなければならないのか」といった質問が来ます。県では、学習計画の半分以上で利用していただければいいのですと答えているわけです。来年度は、また、新しい市町村からぜひ名乗りを上げて欲しいものです。今日は、本堂に有難うございました。

実践記録シリーズ

(27)

ここに、こんな人が

小千谷市公民館

小千谷市公民館に、民間指導者として活躍している二人の中国人姉妹がいる。

姉は二年前の十月に結婚して既に小千谷市民。妹は昨年同月に姉の出産賄いに来てこのかた市内に在住している。

先ず、姉の方から紹介しよう。名は沈慧紅(シンファイホン)入籍して川井の姓となる。中国一の大都市上海(ジャンハイ)の中心街に生まれる。当年二十



中国語の指導 (慧紅さん)

九歳。大学を卒業し中学校で数学教師を三か年経験。その後、公営企業に入り事務を担当していた。たまたま小千谷市の会社員で、現地指導に出向していた男性と知りあったのが夫君。縁あって国際結婚の夫が結ばれたという次第。

彼女と私の初対面は、結婚早々のころのこと、彼女の居住する地区の公民館(大崩分館)と小学校が共催した(彼女を講師としての)中国青少年活動に関する学会の折である。中国にいた当時から続いていたという日本や日本語のマスターぶりには驚かされた。過去の教師経験から、黒板の使い方も巧み、漢字ひらがなも自在。話しの筋立てもうまく、アクセントも素晴らしく、聞き手を飽きさせなかつた。「この人材の活用を」と学習会終了後の控室での歓談の中で要請、快諾を得る。

以来、本館での二か年にわたった中国語講座をはじめ、婦人・PTA・高齢者等を対象とする学習を、地域・分館にも延長、各所で好評を得た。近隣にも話題が及び、北魚へも出向。最近では長岡市からも招かれてい

る。彼女の話の多くは中国のこ

と。十一億余と世界一の人口を有する国の国づくり、男女平等で働く姿、子育て、家庭生活、学校、社会教育、福祉制度、などなど経済成長の後遺症多きわれ／＼日本人に考えさせるものを多く与えてくれている。

次は妹のこと。名は慧芝(フィーツウ)年齢は二十四歳。太極拳の技術をもっていると言き社会体育課へ紹介。当市では、自衛術体操が普及していたが、

課長は心身の錬成にと早速太極拳講座を開講することにして公募。開講したのが降雪の最中の本年一月である。五十名くらい

はと思つたのに百余名の参加。以米月三回の夜を八か月重ね、多くの定着者が生まれた。十月二日には自衛術体操と並行して

市民への発表会を開くことに

なっている。来年度は更に、この受講者から地域指導者になつてもらい、社会体課と公民館と共催して、全市に普及すること



太極拳の指導 (慧芝さん)

るのに夜の学習が大部分のため、子どもを義母や夫に託して、春に取得した運転免許のハンドも巧みに、山地の夜道をものともせずどこへでも笑顔で出かけてくれる。

国際交流は、結婚もその範ちゅうに入ってきたようだ。私たち公民館人は、地域住民となる外国人をどう迎えるかを真剣に考えなければならぬ。小千谷市公民館は観点をここにお

き、単に入居者の知識や技術を公民館活動に利用するだけでなく、コミュニティづくりへの共進者として迎えている。つまり、

特技を持って人からはまずその特技を提供してもらおう。次には、地域の日常の諸行事に参加するよう積極的に勧誘する。そうすることが、地域住民の一

員として所属感を深め生きがいを持つことになろうと思うし、異国の地に定住する安堵感を持つことになろうと思う。今回の場合も、彼女の居住地での住民活動に参加するよう助言をしてきたことだ。その慧紅さんは九月

一日の村祭りに、夜の仮設ステージで若い衆と共に踊り、チャイナ服での中国歌謡も披露していた。もうすっかりとけこんでいる。

(小千谷市公民館長 篠田朝隆

九月十日記)

第37回 中越地区公民館研究大会 意欲的な分科会討議

三条市中央公民館を会場に

第37回中越地区公民館研究大会が、8月25日、三条市中央公民館を会場に開催された。主題は「住民の学習要求に応えるために」で、25名の参加者が、主事・館長・運営の三部会五分散会に分かれ、熱心な研究討議を展開した。

このうちから、問題の多い青年対象事業を取り上げている第一分散会の内容を紹介する。

主管の三条市中央公民館の渡辺健主事の話題提供を中心に、「青年層の積極的な学習参加」を目指してバズセッションによる討議が進められたが、その手順が極めて整然として無駄のない研究討議の進め方であった。

- 一、青年の実態調査結果をもとに、三条市の青年の問題はあく、及び課題の提示。
 - 二、その課題解決をねらった青年講座「青年アカデミー」の年間学習計画の提示。
 - 三、以上の二つを基調として、バズセッション方式による話しあい。
- となっており、さらに、バズは

①学習プログラムの立案に当り、青年たちの学習要求と地域社会の要請との間のバランスをどう調整するか。

②青年対象事業のPRに当たり、市政だよりやポスターなどのほかに魅力ある広報活動にどう



んな方法があるか。

③青年層の自主グループの育成策や講座終了後の公民館からの援助策について。

この柱に基づき、バズグループ(六班)の討議結果の概略を

紹介しよう。

①については、・スポーツ・レクと抱き合わせにする方法が効果的だ。・地域を指導する内容を主流にしたらどうか。・若い主事が相談相手になるのが大切。

・このプログラムは、内容が豊富すぎて散漫ではないか。一つのものにじっくり取り組む集中力が必要、という厳しい意見も。

②については、・ロコミが最も効果的。・キャッチフレーズやネーミングを検討すべき。

③については、・グループづくりにねらいをおいたプログラム編成を。・自治会活動を取り入れた学級運営を。・新しい者も気安く仲間に入れる開かれたグループにする。等々。

まだまだ多くの意見が報告されていたが割愛する。

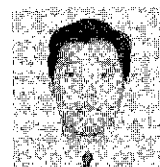
とにかく、このような手順でなされた討議は、①課題が明確にされ、②その上話しあいの柱が用意され、③特定した条件(ここでは三条市)を設定して話しあいだったことが成功したのもと思う。

ややもすると、出席者の所属する公民館の施設条件、地域的條件の相違から、意見は噛み合いにくいのだが、今回のような条件での話しあいの貴重さを示したといえる内容の濃い分科会討議であった。(上村記)

三条市中央公民館主事

渡辺 健氏(28歳)

昭和58年4月に三条市民センターへ、同センターが公民館に移行する準備として公民館事業研修のために中央公民館へ出て発足。彼は、嵐南公民館地区住民に公民館事業を周知するため、「公民館だより」発行PRに努め、「いつでも、どこでも、だれでも」が学習できるように、生涯各期に渡る事業を立案、子



も共和国、婦人専科、教養講座、高齢者教室を実施。また、行事展示コーナーを設け、公民館活動を理解していただくように努めて来た。

本年4月、中央公民館に異動、手薄な青年対象の学習活動に取り組み「青年セミナー」を開設し、青年達と交流を得て張切っている。7月、8月社教主事講習を受講し、公民館活動のより一層活発化のため奮闘している。今後職員のリーダーとして活躍することを期待する。(三条市中央公民館長 川村新治記)

素顔拝見

北蒲原郡聖籠町公民館主事

鈴木 康子さん(33歳)

「公民館業務で、今思うことは。『館に入って五年目。一般行政事務とちがって、動くことの多い毎日です。』

「子どものある年齢・分野は『子どもの世界。その世界とそれを支える人達との本を通した活動です。でも、毎日が忙しく仕事をふり返る余裕がなく、ただ流されているみたいで。』

「そんな中、七、八月に図書館情報大学で司書講習を受講しましたが、どうでしたか

「一番は、全国の方々と出あ



たこと。そして、図書館は情報を得る一番の施設であることを再認識(彼女は高校卒業後、司書補を取得)したり、そして、今図書館は、本の貸出しを基本に情報を届けるサービスが求められています」

「本との出会いを大切にしている鈴木さんの推薦する本は?」

「仕事では『私の絵本体験』で私的に『彼の生き方』かな」(聖籠町公民館社会教育主事 手島勇平記)

別表 市町村開設の各種学級・講座数(国・県補助を含む)

| | 少年 | 青年 | 成人 | 婦人 | 高齢者 | 家庭教育 | その他 | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-------|
| 61 | 165 | 133 | 840 | 669 | 282 | 449 | 42 | 2,589 |
| 62 | 182 | 132 | 850 | 634 | 286 | 471 | 49 | 2,620 |
| 63 | 198 | 134 | 890 | 604 | 291 | 442 | 43 | 2,602 |

国庫及び県補助による各種学校・講座の開設数

| | 少年 | 青年 | 成人 | 婦人 | 高齢者 | 家庭教育 | その他 | 計 |
|----|----|----|----|----|-----|------|-----|-----|
| 61 | 7 | 19 | 33 | 52 | 28 | 78 | 8 | 225 |
| 62 | 6 | 14 | 31 | 50 | 27 | 64 | 13 | 205 |
| 63 | 0 | 6 | 10 | 22 | 0 | 45 | 0 | 78 |

注=昭和63年度は市町村補助事業の組み替えによって、県単補助が無くなった結果による



調査結果に見る 本県公民館の実情

その一 学級・講座への 取り組みに思う

本年五月一日現在での社会教育概観の集計を終えてみると、市町村で開設している各種学級・講座の推移は別表のとおりである。

少年・成人・高齢者対象が増加傾向、婦人・家庭教育が減少傾向にあるが、総数の上では横ばい状態に見られる。しかし、国や県の補助対象としての学級・講座数が六一年の二二五から六二年は二〇五、六三年は七八と減少していることを考え合

わせば、市町村が単独で開設している学級・講座数は増加傾向にある。市町村担当者の努力に敬意を表したい。

公民館の行う事業はなにも学級や講座だけではない。①住民のたまり場である。②集団活動の拠点である。③「私の大学」である。④文化創造の広場である等の役割を担う教育施設であるとするならば、やはり

学級・講座の開設が公民館の中心的な働きとなるであろう。

カルチャーセンターやコミュニティセンターでもできるというものではなく、他の施設・機関より徹底的に地域に根ざし、地域の人々の現在及び将来の生活にとって欠くことのできない知識や技術(生活課題や地域課題)の学習に結びつかながらお膳立てをすることが望まれる。

また、市町村別でみると、学級・講座の開設数や種別に依然としてかなりのアンバランスが見られ、開設数の少ない町村が固定化されてきている。改善への一層の努力を期待したい。

(県社会教育主事 渋谷孜記)

読書をすすめる集い開催案内

新潟県読書推進運動協議会・県立新潟図書館・開催地図書館 公民館の主催による「読書指導研修会」が開催される。

- 一、期日・会場
 - 上越・中越地区 11月24日(休)
 - 西頸城郡青海町立田沢小学校
 - 下越・佐渡地区 11月10日(休)
 - 岩船郡朝日村体育館
- 二、日程・内容
 - 開会 13時~13時20分(両会場)
 - 講演 (13時20分~14時20分)
 - 上・中越会場「伝説と昔ばなし」 著述家 小山直嗣氏
 - 下・佐渡会場「本好き人間のひとりよがり」 児童文学者

佐藤州男氏 研究協議(14時30分~16時) テーマ「読書ー現代社会における親と子のかけはし」

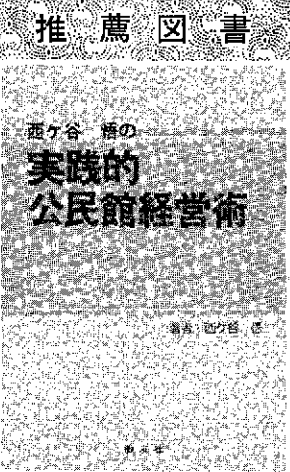
三、参加者 PTA会員、地域文庫・家庭文庫関係者、読書グループ、図書館・公民館職員、学校関係者、読書活動に関心ある人。

四、参加申し込み ○上越・中越会場 11月8日までに、青海町教育 社教課 (〒949-03 青海町大字青海) ○下越・佐渡会場 10月27日までに朝日村公民館(〒958朝日村大字岩沢)へ

実践的公民館経営術

何をどうやるか

西ヶ谷 悟 著 教友社



来月開催予定の県公民館大会の講師西ヶ谷悟氏の著書である。西ヶ谷氏は、つとに「生涯学習の原点は生活にある」とされ、その生活の基盤である地域と公民館との関係について実践的に研究を進めていられるその道の権威である。

本書は、全体を八章で構成し、一章から四章までは、公民館の今日的性格・経営管理・活動の企画と展開・コ

おわび

◆前月号第二面の囲み記事の執筆者が浅野靖となっておりましたが、浅野靖の誤植でした。玉稿を提供してくださった、浅田氏に深くおわび申し上げます。

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】
発行人 会長 木下 清一
編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部120円 年共・年販1,440円】